

静岡文化芸術大生

作品と文化財 調和

静岡文化芸術大と浜松市は18日まで、同市天竜区の国登録有形文化財「旧田代家住宅」を舞台に、文化財の活用を考える展示会「鹿(か)の子展」を開催している。かつての筏(いかだ)問屋に、地域の歴史や自然から構想を得た学生の作品が並ぶ。

天竜区・旧田代家住宅 きょうまで展示



文化財と調和した作品が並ぶ会場
＝浜松市天竜区の旧田代家住宅

市と同大による文化財部の3年生14人が4月財建造物活用の共同研究から準備を始め、同住宅や地域の歴史を学ぶ一環。デザイン学

ながら作品のコンセプトを考えていった。担当教員の同学部新妻淳子准教授は「美術館などの展示場とは違った見え方がする。作品を通じて文化財の新たな魅力作りにつながれば」と語る。

会場には、天竜川の流れを表現した染め物や金工、住宅と調和する織物などが展示されている。川の流れや過去と現在の境界を木工作品で表した森友輝さん(20)は「代々受け継がれてきた住宅と土地の記憶を作品に詰め込んだ」と話す。

染め物、金工、織物…地域の歴史、自然から構想

入場無料。18日は午前10時～午後2時。正午から、公開講座が行われる。
(天竜支局・垣内健吾)